



南風

第 1 1 号

令和6年1月9日発行

<http://yonominami-j.saitama-city.ed.jp>

<学校教育目標> 進んで学ぶ生徒 心豊かな生徒 心身共に健康な生徒

年頭に当たってご挨拶申し上げます。

一月一日に能登半島地震が発生しました。報道からは、自助、共助の精神の元で被災の困難に立ち向かい続けている様子がうかがえます。私たちは遠隔の地にあっても共に生きる仲間として力を合わせ、助け合いながら逆境を乗り越える姿勢と行動を忘れないようにしたいと思います。被災地域、そして当地の学校の一日も早い復旧復興をお祈りします。

安全と安心に関わって

校長 吉原 誠 士

「小山本家酒造」(西区指扇)からさいたま市の全中学校にご寄贈頂いたAEDは、本校門柱脇に設置されました。AEDは突然の心停止が発生した場合、自動的に心電図の解析を行い、心臓の不規則な動きを正常な状態に復帰させる機械です。緊急事態が発生した時、平均8分かかる救急車の到着以前に用いることができれば救命率がアップします。地域の皆さんが、365日、24時間、いつでも使えるよう、無施錠の屋外型収納ボックスに入れてあります。AEDはこれまでも各校に1台ずつ置かれ、与野南中学校では、1階保健室の校庭側窓を破ってでも取り出しできるようにしていました。2年前には、後援会により増設が図られ、休日の開放施設利用者も使用できるよう、体育館に配置しました。

2011年に市内小学校で発生した駅伝の課外練習中の事故を教訓に、さいたま市では毎年9月30日を「明日も進むいのちの日」と定め、再発防止の取り組みを進めています。教職員研修会に加えて、生徒は小学5・6年と中学1年で座学とシミュレーション訓練を行い、「普通救命講習Ⅰ」の修了資格を取得します。救急救命の考え方は「治療は医師の仕事、素人は手を出すな」から、「救命活動はすぐにやる、誰もがやる、みんなでやる」へ転換したのです。訓練の成果は本校でも発揮され、数年前には、土曜部活動中の生徒がガラスを割って機器を取り出したことがあります。この時は幸いにも使用には至りませんでした。地域にとっても、的確に判断できる生徒は心強い存在でしょう。

安全と安心の確保はいつの時代、いかなる場所でも最優先課題です。天災への備えとしては、11月に地域の皆さんによる避難所開設訓練が実施されました。南中でも小学校と連携した「引き渡し訓練」を毎年5月に実施するようにしました。災害発生時に保護者が来校できない場合は、施設の破損状況も考慮しながら子どもたちを学校に足止めします。このような時、教職員は自分自身に関わることも気に掛けながら、公務員としての重い責務を果たすこととなります。私たちは市内10区のいずれかで震度5弱以上が観測されると、学校に参集することにもなっていますが複雑な事情も生じ得ます。事態を吟味して決断、行動することになりますが、互いに気を配れるような協力関係を築きたいと思えます。

上記の「有事に備える」こと以外に、「発生を未然に防止する」危機管理も忘れてはなりません。本校では現在も日常的に1階開口部は閉鎖しています。登下校時と昼休みは昇降口に職員が立っています。これは桜区で昨年度発生した動物虐待事件の直後に、人への危害も予測して措置したもので、戸田市での学校侵入事案以前から行ってきました。犯人逮捕後も模倣犯の可能性が排除できないと考え、継続しています。実際、卒業式当日に体育館一階から入場を試みた不審人物は何もできず立ち去りました。式を終えた卒業生は保護者同伴で、在校生は警察と教職員による巡回下での集団下校でした。まだまだ何が起こるかわかりません。今年も気を緩めず、安全と安心の確保に邁進してまいります。